Agilent OpenLab Server および OpenLab ECM XT
リビジョン 2.7

リリースノート

注意

マニュアル番号

文書番号：D0013944ja

2022 年 5 月

著作権

© Agilent Technologies, Inc. 2022

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

Agilent Technologies, Inc.
5301 Stevens Creek Blvd.
Santa Clara, CA 95051
USA

ソフトウェアリビジョン

このガイドは改訂版が発行されるまで Agilent OpenLab Server および OpenLab ECM XT バージョン 2.7 以降の最新システムに対応します。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

米国政府の制限付き権利について: 連邦政府に付与されるソフトウェアおよび技術データに係る権利は、エンドユーザーのお客様に通例提供されている権利に限定されています。Agilent は、ソフトウェアおよび技術データに係る通例の本商用ライセンスを、FAR 12.211（Technical Data）および 12.212（Computer Software）、並びに、国防総省に対しては、 DFARS 252.227-7015（Technical Data - Commercial Items）および DFARS 227.7202-3（Rights in Commercial Computer Software or Computer Software Documentation） の規定に従い提供します。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、警告を無視して先に進んではなりません。

目次

1 はじめに 4

規制環境でソフトウェアをご使用のお客様へ 4

2 OpenLab Server 5

バージョン 2.7 5

バージョン 2.6 7

バージョン 2.5 9

バージョン 2.4 10

バージョン 2.3 12

バージョン 2.2 13

バージョン 2.1 13

バージョン 2.0 14

バージョン A.02.02 15

バージョン A.02.01 15

3 OpenLab ECM XT 16

バージョン 2.7 17

バージョン 2.6 19

バージョン 2.5 21

バージョン 2.4 23

バージョン 2.3 23

4 重要なサポート情報 25

1 はじめに

本書では、OpenLab Server および OpenLab ECM XT ソフトウェアの各リリースの主な変更点を記載しています。

既知の問題および回避方法に関する情報も記載しています。

規制環境でソフトウェアをご使用のお客様へ

Agilent のソフトウェアを更新・変更する場合に必要となる、ソフトウェアの再バリデーション等についてはお客様の責任において実施してください。

ソフトウェアの更新・変更時には、個別の変更内容に対する検証だけではなく、ソフトウェアシステム全体における更新の範囲とその影響を分析し検証を行う必要があります。

2 OpenLab Server

OpenLab Server ソフトウェアは、Shared Service と Content Management コンポーネントで構成されています。Shared Services はシステム管理、Content Management はあらゆる種類のデータとファイルを管理できます。

このセクションでは、OpenLab Server と ECM XT の変更事項を記載しています。

バージョン 2.7

サポートされるオペレーティングシステム

サポート追加のオペレーティングシステム

- Windows 11 Professional （クライアントのみ）
- Windows 11 Enterprise（クライアントのみ)

サポートされるデータベース

サポート追加のデータベース

- PostgreSQL 14.1

サポート終了のデータベース

- PostgreSQL 11.5
- SQL Server 2014
- Oracle 18c

サポートされるブラウザ

サポート終了のブラウザ

- Internet Explorer

新機能

- アクティビティログの表示権限を持つ新しいアクティビティログのアクセスロール

  以前のバージョンでは、Content Management アクティビティログのすべてのエントリが、ロール/権限にかかわらずログインしたすべてのユーザーに表示されていました。v2.7 では、新しい権限（アクティビティログの表示）および、この権限のみを含む新しいロール（アクティビティログのアクセス）が追加されました。Content Management ユーザーは、アクティビティログとそのすべてのエントリを表示するには、アクティビティログの表示権限が必要となります。アクティビティログを表示できるユーザーは、アクティビティログのアクセスロールか、アクティビティログの表示権限を含む別のロールが割り当てられている（または該当するロールを持つグループの一員である）必要があります。

  アップグレードの場合、すべてのユーザーにアクティビティログのアクセスロールが割り当てられるため、ユーザーは機能を失いません。ただし、ユーザーからアクティビティログのアクセスロールまたはアクティビティログのアクセス権限を削除することができます。
- ユーザー名の表示にユーザー ID を標準化

  ユーザー名はすべての監査証跡およびアクティビティログでフルネーム（ユーザー ID）の完全な形式で表示されます。
- バックアップおよびリストアユーティリティでは、バックアップ関連ファイルの一時的な保存にデータベースのバックアップロケーションを使用します。
- 4 台のサーバーを使用するトポロジー用の新しいバックアップおよびリストアスクリプト
- 新しい差分コンフィグレーションツールにより、OpenLab Server/ECM XT によって使用されるすべての PostgreSQL インスタンスを一度にコンフィグレーションできます。
- OpenLab Installer の更新
  - 新しい外観に更新
  - ［プラン］ページから開いた htm ページにあるリンクから、マニュアルやドキュメントにアクセスできるようになりました。
  - データリポジトリ用のパスワードの設定がステップ 1 の必要なコンポーネントに移動しました。
- OpenLab CDS + OpenLab Server/ECM XT システムを実行するために必要なファイアウォールポートの数をさらに削減しました。必要なポートの全リストについては、『OpenLab Server/ECM XT ハードウェアおよびソフトウェア要件ガイド』を参照してください。

バージョン 2.6

サポートされるデータベース

新しくサポートされるデータベース

- Oracle 19c（オールインワンシステムはサポートされていません）
- PostgreSQL が別のデータベースサーバー上でサポートされるようになりました。

サポート終了のデータベース

- Oracle 12c R2

仮想化のサポート

- OpenLab Server/ECM XT は、VMWare vSphere 64 ビット 6.x または Windows Server 用 Hyper-V によって管理される仮想マシン上でサポートされるようになりました。仮想マシンは、OpenLab Server/ECM XT のハードウェアとソフトウェア要件を満たしていなければなりません。

Office アプリケーションのサポート

- Microsoft Office 365 64 ビットを追加

通信ポートの更新

- OpenLab Server によって使用される通信ポートの番号およびタイプは、バージョン 2.6 で以下の表のように変更されています。

変更	ポート情報		通信プロトコル	
	ポートの種類	ポート番号	新	旧
追加されたポート	内部	9083	HTTP	N/A
追加されたポート	内部	12876	HTTP	N/A
追加されたポート	外部 - RabbitMQ サーバー	5671、5672、15671、15672、4369	TCP	N/A
プロトコル変更	外部	52088	HTTPS	HTTP
プロトコル変更	外部	9092	HTTPS	TCP

プロトコル変更	外部	9093	HTTPS	TCP
プロトコル変更	外部	21	FTP	TCP
削除されたポート	外部	52080	HTTP	N/A

新機能

- 新しい Content Management のロールと権限
  - 新しくプロジェクトコンテンツの削除権限が追加され、プロジェクト関連のコンテンツの削除および移動が可能
  - プロジェクトコンテンツの削除権限を持つ、プロジェクトコンテンツの削除ロール（Shared Services）が新しく追加
  - 新しい Content Management 管理者ロール：プロジェクトのコンテンツの表示、読み込み、追加、変更、移動、削除
- 新しいバックアップおよびリストアユーティリティ
  - 手動バックアップとリストアの手順を新しい 2 つのユーティリティに置き換えています。ホット/コールド、フル/差分、即時/定期的、ローカルまたはクラウドベース（Amazon S3）のバックアップストレージをユーザーは選択できます。クリーンなシステムや既存のシステムへリストアします。
  - オールインワンおよび 2 台のサーバートポロジーでサポート
  - バックアップおよびリストアユーティリティは Oracle データベースをサポートしていません。
- OpenLab Server を使用する OpenLab CDS では、CDS コンポーネント（OpenLab CDS クライアント、AIC、ウェブブラウザなど）とサーバーアプリケーションの通信は、保護された https プロトコルを使用します。アプリケーションの適切な認証のために、Agilent OpenLab は、システムコンフィグレーションの一部として既存の商用署名されたデジタル証明書、または OpenLab の自己署名証明書を使用することができます。
  - OpenLab Server に接続するすべてのシステムが https 通信プロトコルを使用するとは限りません。適用性については、関連システムの詳細を参照してください。HTTPS プロトコルを使用するシステムの接続は、適切なデジタル証明書を使用してください。
- 新しい Basic Server ライセンス
  - 最大 4 台の機器を登録しコンフィグレーションできるオールインワンサーバー
  - 電子署名はサポートされていません。

- オフライン編集はサポートされていません。
- Oracle データベースはサポートされていません。

バージョン 2.5

サポートされるオペレーティングシステム

新しくサポートされるサーバー OS：

- Windows Server 2019（64 ビット）Standard または Datacenter

新しくサポートされるクライアント OS：

- Windows Server 2019（64 ビット）Standard または Datacenter

サポートを終了したオペレーティングシステム：

- Windows 7 SP1（64 ビット）Professional または Enterprise Edition[1]
- Windows Server 2012 R2 Standard または Enterprise Edition

サポートされるデータベース

新しくサポートされるデータベース：

- SQL Server 2019（64 ビット）
- PostgreSQL（64 ビット）11.5
- Oracle（64 ビット）18c

サポート終了のデータベース：

- Microsoft SQL Server 2012 Standard または Enterprise SP4 (64 ビット)

新機能

- ホットバックアップとリストア

  Solr インデックス、データベース、コンテンツストア、およびコンフィグレーション情報のホットバックアップを含めた OpenLab Server および ECM XT システム用の新しいホットバックアップとリストア。ホットバックアップは、システムがデータの取り込みおよび解析中に実行できます。

- 自動アーカイブ

[1] Empower 3 用 ECM XT インターフェイスは Windows 7 で動作

新しい自動アーカイブ機能により、ユーザーは特定の時間に自動アーカイブタスクを実行することができます。自動アーカイブタスクを実行すると、コンテンツフォルダーに割り当てられたユーザー指定のアーカイブルールが実施され、コンテンツがアーカイブ先ロケーションへ移動します。アーカイブ機能自体は以前のソフトウェアリビジョンと同じです。

- セキュリティを向上

サポートされるセキュリティ機能：クロスドメインリクエストを防止するための HTTPS、CSRF（Cross-Site Request Forgery）フィルター、および CORS（Cross Origin Resource Sharing）のコンフィグレーションをサポート。

- 新しい System Preparation Tool

Site Preparation Tool を新しい System Preparation Tool に置き換えています。System Preparation Tool により、OpenLab のインストールの前にシステムコンフィグレーションが確実に要件を満たすようになります。ツールはインストーラから実行でき、インストール前に実行できます。

バージョン 2.4

サポートされるオペレーティングシステム

新しくサポートされるサーバー OS：

- Microsoft Windows Server 2016 Standard または Datacenter

新しくサポートされるクライアント OS：

- Microsoft Windows Server 2016 Standard または Datacenter

バージョン 2.3 でサポートされているオペレーティングシステムから除外された OS はありません。

サポートされるデータベース

新しくサポートされるデータベース：

- Microsoft SQL Server 2017 Standard または Enterprise (64 ビット)
- Microsoft SQL Server 2016 SP2 Standard または Enterprise (64 ビット)
- PostgreSQL Server 10.3

- Oracle 12c R2

サポート終了のデータベース：

- PostgreSQL Server 9.3
- Oracle 12c R1

新機能

- アクティブコンテンツストレージとアーカイブストレージの保存場所を区別

アーカイブ用にロックしたファイルは、未アーカイブファイルと別の場所に保存されます。 ファイルをアーカイブすると、その物理ファイルがアクティブストレージからアーカイブストレージに移動します。 アクティブストレージとアーカイブストレージの場所を定義できるように、OpenLab Installer のステップ 4 を更新しました。システム管理者は、OpenLab Installer のステップ 4 を実行して、ストレージロケーションを追加できます。

- 複数のアクティブ / アーカイブストレージロケーションをサポート

複数のアクティブストレージロケーションを定義し、使用できます。 新しく追加したストレージロケーションは、「Primary（プライマリ）」ストレージに指定されます。 「Primary」ストレージは、すべてのファイルのアップロード、読み取り / 書き込みに使用されます。 新しいストレージロケーションが構成されると、それまでのプライマリストレージは自動的に「Secondary（セカンダリ）」ストレージになります。 セカンダリファイルストレージは読み取り専用です。 ストレージロケーションの追加は、OpenLab Installer のステップ 4 で行ってください。

アーカイブストレージも Primary（プライマリ） / Secondary（セカンダリ）ストレージを同様に構成できます。

- Amazon のクラウドファイルストレージをサポート

Amazon S3 クラウドにアクティブファイルとアーカイブファイルを保存できます。 Amazon S3 クラウドのストレージロケーションへの追加は、OpenLab Installer のステップ 4 で行ってください。

- スケーラブルなトポロジーを自動で設定

OpenLab Installer のステップ 4 にしたがって、スケーラブルなトポロジーを自動で設定できます。 Content Management（インデックスおよび検索サービスを含む）、Content Management のみ、インデックスおよび検索のみの 3 種類の新しいサーバー構成をサポートします。 既存のサーバーは、Content Management のみのサーバーに再設定できます。

- ファイルセット

解析ファイル（シーケンス、解析メソッドなど）をグループに分類します。解析用のファイルセットグループとして保存され、グループの全ファイルへのアクセス、ダウンロード、バージョン管理が可能です。ファイルセットに分類されたファイルは、特別な色のフォルダー（濃紺）に保存されます。

新規ファイルの追加またはファイルの変更を行うと、ファイルセットのバージョンが更新されます。 ファイルセットフォルダーのファイルセットバージョン履歴から、以前のバージョンのファイルセットを表示、ダウンロードできます。 新規フォルダーアクションを使うと、zip 形式でファイルセットをダウンロードできます。 上記のファイルセット機能は、Content Management のユーザーインターフェイスでのみ使用できます。

- メタデータを使用したフィルタリングとフォルダー検索

メタデータを使用したフィルタリングとフォルダー検索を追加したことで検索機能が強化されました。 メタデータを使用したフィルタリングとは、データタイプ、アップロード日時、ファイルセットなどの属性をもとに、特定のファイルまたはフォルダーの検索結果を容易にフィルタリングできる機能です。 フォルダー検索の検索結果はフォルダーのみです。

- SSIZIP 内部のファイルのプレビュー

SSIZIP ファイルのすべてのコンテンツを表示できます。 対応する形式のファイル（.ch、.doc、.docx、.xls、.xlsx、.pdf、.txt）をクリックするとプレビューが表示されます。 この拡張機能を使うと、ChemStation SSIZIP ファイルから直接 ChemStation のクロマトグラムデータを表示できます。ダウンロードやファイルの抽出は必要ありません。

バージョン 2.3

このセクションでは、OpenLab Server と ECM XT の変更事項を記載しています。

サポートされるデータベース

- Microsoft SQL Server 2012 Standard または Enterprise SP4 (64 ビット)
- Microsoft SQL Server 2014 Standard または Enterprise SP2 (64 ビット)
- PostgreSQL Server 9.3
- Oracle 12c R1

その他

- 基本的な検索エンジンを Solr 4 から Solr 6.3 へアップグレード
- 検索の最適化およびコンテンツのインデックスに新しく専用の検索サービスを追加

バージョン 2.2

このセクションでは、OpenLab Server と ECM XT の変更事項を記載しています。

新しくサポートされるデータベース

Microsoft SQL Server 2014

新機能

- インストーラを更新
- 管理者コンソールモジュールへのリンクを Content
- Management Web ユーザーインターフェイスに追加
- OpenLab CDS バージョン 2.2 をサポートするストレージ API を更新

バージョン 2.1

新しくサポートされるデータベース

- PostgreSQL バージョンが 9.3.6 へ更新

新機能

- OpenLab CDS バージョン 2.1 のファイル形式をサポートするためのメタデータ抽出および検索の強化
- OpenLab CDS バージョン 2.1 検索機能のサポート
- Web ユーザーインターフェイスの拡張機能およびカスタマイズ
- ウェブクライアントからコンテンツにアクセスする新たな権限を追加

- システムパフォーマンスの改善

その他

- OpenLab Data Store は OpenLab Server に名前が変更されました
- Data Store ウェブインターフェイス は Content Management に名前を変更
- リポジトリ外部のファイルをアーカイブおよび消去するための機能を削除
- Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1 のサポート機能を削除
- Microsoft SQL Server 2008 のサポート機能を削除
- Oracle 11g のサポート機能を削除

バージョン 2.0

新しくサポートされるデータベース

- Oracle 11g R2
- Oracle 12c R1

新機能

- 新しいインストーラ
- Web ユーザーインターフェイスの拡張機能およびカスタマイズの更新
- Agilent の新しい設計ガイドラインに基づいた新しいユーザーインターフェイス
- リポジトリ外部のファイルをアーカイブおよび消去するための機能を追加
- OpenLab CDS バージョン 2.0 をサポートする新しいストレージ API
- OpenLab CDS バージョン 2.0 のファイル形式をサポートするためのメタデータ抽出および検索の強化
- クラスターコンフィグレーション用の高い可用性およびパフォーマンスのサポート
- サポート言語としてポルトガル語（ブラジル）を追加

バージョン A.02.02

新しいオペレーティングシステムのサポート

- Microsoft Windows Server 2012 R2
- 新しいデータベースのサポート
- PostgreSQL 9.2
- Microsoft SQL Server 2012 Service Pack 2

新機能

- FTP サポート

一般的な FTP クライアントツール（FileZilla など）を使用し、Data Store リポジトリとの間でファイルのアップロードやダウンロードができます。システムで設定されているユーザーの権限や特権が、FTP 操作にも適用されます。

FTP プロトコルはデフォルトで有効になっています。FTP の有効化と無効化の手順については、『OpenLab Data Store 管理者用ガイド』を参照してください。

- HTTPS および FTPS のサポート

バージョン A.02.01

- OpenLab Data Store A.02.01 サーバーは、専用のインストールプログラムを使って他の OpenLab ソフトウェアから独立してインストールすることができます。
- このソフトウェアは、Microsoft SQL Server 2008 R2 SP2 に加え、PostgreSQL データベースエンジン リビジョン 9.0 にインストールできます。
- サーバーのインストール時に、内部認証が自動的に有効になります。デフォルトユーザー ‘admin’ が、パスワード ‘openlab’で作成されます。
- このソフトウェアは、同一サーバーで OpenLab CDS ワークステーション（ChemStation または EZChrom）と ICP-MS MassHunter ワークステーションが混在する機器を 30 台までサポートします。
- OpenLab Data Store A.01.02 で導入された Lab Applications は、このリリースではサポートされません。

3 OpenLab ECM XT

OpenLab ECM XT は、高度なコンテンツ管理機能（Microsoft Office など）と次の追加機能を備えた OpenLab Server ソフトウェアを搭載しています。

- Import Service： ローカルフォルダーから OpenLab Content Management へファイルを送信できます。
- Import Scheduler： ネットワークコンピューターに保存されたファイルを ECM XT に自動でインポートします。
- PDF データ抽出： PDF レポートから選択した値を OpenLab ECM XT のデータ抽出に利用できます。

このセクションでは、ECM XT の変更事項を記載しています。

バージョン 2.7

サポートされるオペレーティングシステム

サポート追加のオペレーティングシステム

- Windows 11 Professional （クライアントのみ）
- Windows 11 Enterprise（クライアントのみ)

サポート終了のオペレーティングシステム

- Windows 7 のサポート（Empower 3 FR4 で使用）

サポートされるデータベース

サポート追加のデータベース

- PostgreSQL 14.1

サポート終了のデータベース

- PostgreSQL 11.5
- SQL Server 2014
- Oracle 18c

サポートされるブラウザ

サポート終了のブラウザ

- Internet Explorer

Import Scheduler Empower アドオンのサポート

- Import Scheduler - Empower アドオンでは Empower 3 FR5 をサポートします。
- Empower 3 FR4 のサポートは終了しました。

PDF メタデータ抽出

Acrobat DC 32 ビットバージョンをサポートしています（変更されていません）。ただし、Adobe ではデフォルトで 64 ビットをインストールします。また、自動更新により 64 ビットがインストールされます。問題を回避するには、『OpenLab Server/ECM XT 要件ガイド』および『OpenLab Server/ECM XT インストールガイド』の説明に従って Acrobat DC 32 ビットをインストールしてください。Adobe の自動更新をオフにしてください。

新機能

- アクティビティログの表示権限を持つ新しいアクティビティログのアクセスロール

  以前のバージョンでは、Content Management アクティビティログのすべてのエントリが、ロール/権限にかかわらずログインしたすべてのユーザーに表示されていました。v2.7 では、新しい権限（アクティビティログの表示）および、この権限のみを含む新しいロール（アクティビティログのアクセス）が追加されました。Content Management ユーザーは、アクティビティログとそのすべてのエントリを表示するには、アクティビティログの表示権限が必要となります。アクティビティログを表示できるユーザーは、アクティビティログのアクセスロールか、アクティビティログの表示権限を含む別のロールが割り当てられている（または該当するロールを持つグループの一員である）必要があります。

  アップグレードの場合、すべてのユーザーにアクティビティログのアクセスロールが割り当てられるため、ユーザーは機能を失いません。ただし、ユーザーからアクティビティログのアクセスロールまたはアクティビティログのアクセス権限を削除することができます。

- ユーザー名の表示にユーザー ID を標準化

  ユーザー名はすべての監査証跡およびアクティビティログでフルネーム（ユーザー ID）の完全な形式で表示されます。

- バックアップおよびリストアユーティリティでは、バックアップ関連ファイルの一時的な保存にデータベースのバックアップロケーションを使用します。

- 4 台のサーバーを使用するトポロジー用の新しいバックアップおよびリストアスクリプト

- 新しい差分コンフィグレーションツールにより、OpenLab Server/ECM XT によって使用されるすべての PostgreSQL インスタンスを一度にコンフィグレーションできます。

- OpenLab Installer の更新
  - 新しい外観に更新
  - ［プラン］ページから開いた htm ページにあるリンクから、マニュアルやドキュメントにアクセスできるようになりました。
  - データリポジトリ用のパスワードの設定がステップ 1 の必要なコンポーネントに移動しました。
- OpenLab CDS + OpenLab Server/ECM XT システムを実行するために必要なファイアウォールポートの数をさらに削減しました。必要なポートの全リストについては、『OpenLab Server/ECM XT ハードウェアおよびソフトウェア要件ガイド』を参照してください。

バージョン 2.6

サポートされるデータベース

新しくサポートされるデータベース

- Oracle 19c（オールインワンシステムはサポートされていません）
- PostgreSQL が別のデータベースサーバー上でサポートされるようになりました。

サポート終了のデータベース

- Oracle 12c R2

仮想化のサポート

OpenLab Server/ECM XT **は、**VMWare vSphere 64 **ビット** 6.x **または** Windows Server **用** Hyper-V **によって管理される仮想マシン上でサポートされるようになりました。仮想マシンは、**OpenLab Server/ECM XT **のハードウェアとソフトウェア要件を満たしていなければなりません。**

Office アプリケーションのサポート

- Microsoft Office 365 64 ビットを追加

クラウドの展開をサポート

- クラウドの展開は、Amazon Web Services（AWS）および Microsoft Azure でテストおよびサポートされ、ECM XT は OpenLab CDS の保護されたリポジトリとして構成されます。ソフトウェア保守契約（SMA）が必要です。サポートされるクラウド構成の詳細については、『OpenLab CDS 要件ガイド』を参照するか、Agilent の担当者にお問い合わせください。

通信ポートの更新

- OpenLab ECM XT によって使用される通信ポートの番号およびタイプは、バージョン 2.6 で以下の表のように変更されています。

変更	ポート情報		通信プロトコル	
	ポートの種類	ポート番号	新	旧
追加されたポート	内部	9083	HTTP	N/A
追加されたポート	内部	12876	HTTP	N/A
追加されたポート	外部 - RabbitMQ サーバー	5671、5672、15671、15672、4369	TCP	N/A
プロトコル変更	外部	52088	HTTPS	HTTP
プロトコル変更	外部	9092	HTTPS	TCP
プロトコル変更	外部	9093	HTTPS	TCP
プロトコル変更	外部	21	FTP	TCP
削除されたポート	外部	52080	HTTP	N/A

新機能

- 新しい Content Management のロールと権限
  - 新しいプロジェクトコンテンツの削除権限が追加され、プロジェクト内のコンテンツの削除および移動が可能
  - プロジェクトコンテンツの削除権限を持つ、プロジェクトコンテンツの削除ロール（Shared Services）が新しく追加
  - 新しい Content Management 管理者ロール：プロジェクトのコンテンツの表示、読み込み、追加、変更、移動、削除

- 新しいバックアップおよびリストアユーティリティ
  - 手動バックアップとリストアの手順を新しい 2 つのユーティリティに置き換えています。ホット/コールド、フル/差分、即時/定期的、ローカルまたはクラウドベース（Amazon S3）のバックアップストレージをユーザーは選択できます。クリーンなシステムや既存のシステムへリストアします。
  - オールインワンおよび 2 台のサーバートポロジーでサポート
  - バックアップおよびリストアユーティリティは Oracle データベースをサポートしていません。
- ECM XT を使用する OpenLab CDS では、CDS コンポーネント（OpenLab CDS クライアント、AIC、ウェブブラウザなど）とサーバーアプリケーションの通信は、保護された https プロトコルを使用します。アプリケーションの適切な認証のために、Agilent OpenLab は、システムコンフィグレーションの一部として既存の商用署名されたデジタル証明書、または OpenLab の自己署名証明書を使用することができます。
  - ECM XT に接続するすべてのシステムが https 通信プロトコルを使用するとは限りません。適用性については、関連システムの詳細を参照してください。HTTPS プロトコルを使用するシステムの接続は、適切なデジタル証明書を使用してください。

バージョン 2.5

サポートされるオペレーティングシステム

新しくサポートされるサーバー OS：

- Windows Server 2019（64 ビット）Standard または Datacenter

新しくサポートされるクライアント OS：

- Windows Server 2019（64 ビット）Standard または Datacenter

サポートを終了したオペレーティングシステム：

- Windows 7 SP1（64 ビット）Professional または Enterprise Edition[2]
- Windows Server 2012 R2 Standard または Enterprise Edition

[2] Empower 3 用 ECM XT インターフェイスは Windows 7 で動作

サポートされるデータベース

新しくサポートされるデータベース：

- SQL Server 2019（64 ビット）
- PostgreSQL（64 ビット）11.5
- Oracle（64 ビット）18c

サポート終了のデータベース：

- Microsoft SQL Server 2012 Standard または Enterprise SP4 (64 ビット)

新機能

- ホットバックアップとリストア

Solr インデックス、データベース、コンテンツストア、およびコンフィグレーション情報のホットバックアップを含めた OpenLab ECM XT システム用の新しいホットバックアップとリストア。ホットバックアップは、システムがデータの取り込みおよび解析中に実行できます。

- 自動アーカイブ

新しい自動アーカイブ機能により、ユーザーは特定の時間に自動アーカイブタスクを実行することができます。自動アーカイブタスクを実行すると、コンテンツフォルダーに割り当てられたユーザー指定のアーカイブルールが実施され、コンテンツがアーカイブ先ロケーションへ移動します。アーカイブ機能自体は以前のソフトウェアリビジョンと同じです。

- セキュリティを向上

サポートされるセキュリティ機能：クロスドメインリクエストを防止するための HTTPS、CSRF（Cross-Site Request Forgery）フィルター、および CORS（Cross Origin Resource Sharing）のコンフィグレーションをサポート。

- 新しい System Preparation Tool

Site Preparation Tool を新しい System Preparation Tool に置き換えています。System Preparation Tool により、OpenLab のインストールの前にシステムコンフィグレーションが確実に要件を満たすようになります。ツールはインストーラから実行でき、インストール前に実行できます。

バージョン 2.4

前述の OpenLab Server の変更事項に加えて、次の変更事項があります。

- アドオンソフトウェアのローカライゼーション

  ECM XT アドオン（Import Scheduler、Import Services、PDF テンプレート）が中国語、日本語、ポルトガル語（ブラジル）でサポートされました。

- Import Scheduler によるファイルセットのサポート

  Import Scheduler の一般タスクで、ファイルセットをアップロードできるようになりました。 Empower のタスクでファイルセットを自動アップロードします。

バージョン 2.3

サポートされるオペレーティングシステム

OpenLab ECM XT バージョン 2.3 サーバーでは次のシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard または Enterprise Edition

OpenLab ECM XT バージョン 2.3 クライアントでは、次のシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows 7 SP1（64 ビット）Professional または Enterprise Edition
- Microsoft Windows 10（64 ビット）Professional または Enterprise Edition
- Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard または Enterprise Edition

サポートされるデータベース

- Microsoft SQL Server 2012 Standard または Enterprise SP4 (64 ビット)
- Microsoft SQL Server 2014 Standard または Enterprise SP2 (64 ビット)
- PostgreSQL Server 9.3
- Oracle 12c R1

OpenLab ECM XT

新機能

- Import Scheduler 用の Empower アドオン

Waters Empower 3 システムから直接 OpenLab ECM XT にデータをアップロードできます。

その他

- 基本的な検索エンジンを Solr 4 から Solr 6.3 へアップグレード
- 検索の最適化およびコンテンツのインデックスに新しく専用の検索サービスを追加

4 重要なサポート情報

https://www.agilent.com/en/support/agilent-openlab-software-support-lifecycle-policy の Agilent OpenLab Software Support Lifecycle Policy で更新スケジュールと各バージョンのステータスを確認することができます。

すべての Agilent ソフトウェア製品の最新情報については www.agilent.com を参照してください。

本書の内容

本書では、OpenLab ECM XT および OpenLab Server ソフトウェアの各リリースの主な変更点を記載しています。

www.agilent.com

© Agilent Technologies, Inc. 2022

エディション 05/2022

文書番号：D0013944ja